

件数、10年で9倍超

トラックのタイヤが走行中に外れる事故が相次いでいる。冬用タイヤへの交換直後が目立ち、11月以降に青森県や北海道などで立て続けに発生。死傷者も出た。2022年度の件数は10年前の9倍超に増えた。国土交通省は運送会社への行政処分を導入するなど対策を急ぐ。

タイヤ交換直後、目立つ 点検・締め直し呼びかけ

「タイヤを交換したら定期的に点検してください」。関越自動車道の新座料金所で6日、国土交通省関東運輸局の職員が大型トラックを呼び止め、タイヤを固定するナットの緩みがないか専用器具で入念にチェックした。ドライバーに点検方法をまとめたチラシも配り、注意を呼びかけた。

11月末以降、トラックなど大型車の脱輪事故が目立つ。12月1日に青森県八戸市の八戸自動車道を走行中の大型トラックのタイヤが外れ、道路脇で作業していた男性に衝突。男性は亡くなった。北海道でも同5〜6日に脱輪事故が相次ぎ、11月

起きた。23年2月までの3カ月で全体の56%を占める。

事故は冬用タイヤに交換した直後の車両で多くみられる。同省の調査では22年度の事故の半数強はタイヤの脱着作業から1カ月以内に起きていた。

交換した冬型タイヤの固定が十分でない状態で走行を続け、脱輪するケースが多いとみられる。「降雪予想があると、冬型タイヤへの交換作業が集中する。作業に追われて、中には固定が不十分な車両が生じている可能性がある」（同省整備課）

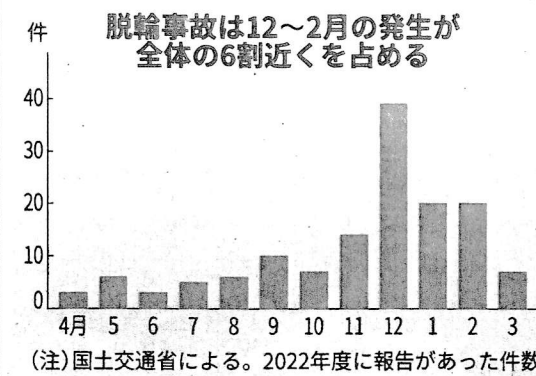
大型車の脱輪事故は増加傾向にある。12年度は15件だったが19年度に100件を超えた。同省整

備課は「タイヤの整備や点検が不十分な事業者が増えている」と分析する。

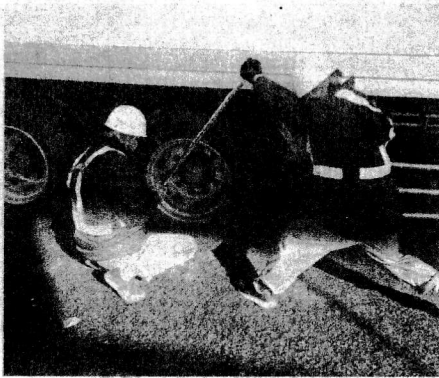
一因とみられるのが深刻な人手不足だ。トラックなどの「自動車運転従事者」の10月の有効求人倍率は2・67倍と高い。安全な運行や整備作業に支障をきたしかねない状況が続く。

脱輪事故を防ぐのに重要なのは「増し締め」と呼ばれる作業だ。タイヤ交換後の走行でナットが緩むことがある。緩みを再び締め付け直すのが増し締めで、50〜100キロほど走った後に実施すると効果的という。

北海道が拠点の物流会社では、タイヤ装着後にナットとホイールにライオンを引くマーキングを施



国土交通省などは高速道路を走行するトラックのタイヤを点検した(6日、埼玉県新座市)



トラック脱輪 冬多発

クのタイヤの取り付け状況を一斉点検するよう指示。冬前の10月には、脱輪事故を起こしたトラック車両の使用を一定期間停止できる行政処分も導入した。1回目は20日間、2回目以降は40日間、ペナルティーを科すことで事業者側の安全意識を高める。(宮田圭、村越康二)

日本経済新聞

2023年
12月19日

火曜日